2026 年度 **教職課程通信** Vol.2

発行：令和８年９月７日
編集：秋田公立美術大学
美術教育センター
教職支援室

～教育実習中間報告～

□ 教育実習事前事後指導



教育実習に臨むにあたり、４月下旬の事前指導として、秋田市立泉中学校教諭の菊地篤先生をお招きし「美術科の授業づくり」についての講話をしていただきました。 菊地先生は、学習環境や生徒の実態に応じた授業づくりの大切さを説き、できる限り生徒とコミュニケーションを図り、信頼関係を築く努力をしてほしいとお話しされました。また、道具を使用する際の安全確保の重要性についても強調されました。 授業づくりのポイントとしては、生徒の発達段階に応じた効果的な声掛け（気づきの引き出し方）や、生徒の思考の流れをイメージした授業展開の工夫、身近な話題から実感を伴う関心を惹きつける手立てなどについて詳しく説明していただきました。特に『鳥獣戯画』を扱った授業の事例では、ウサギとカエルの動きから連想する台詞を考えさせたり、ウサギのシルエットをくり抜いた絵に新たな要素を加えることで物語を想像させたりと、生徒の関心を広げる具体的な工夫について教えていただきました。

菊地先生が使用したワークシートの一例



学生諸君のレポートには次の記述がありました。一部紹介します。

- ◆ 生徒の反応の中には、不規則な発言もあるだろう。授業の説明に対し本筋からズレた言動が見られた場合に、ある程度の取捨選択が必要だと分かった。
- ◆ 教師側が生徒に何をやらせたいのか、そのためには何を準備し、何を練習させ制作に臨めるようにするのか、計画を立てて、細かな部分まで気を気張る必要があると思った。
- ◆ 自分や生徒の経験した題材からだけではなく、その学校の環境や学習の約束の徹底など、実態に応じた授業をデザインすることが大切だと感じた。
- ◆ 生徒の集中を阻害しない進行を心がけて授業づくりに取り組みたい。また、道具の使用上の注意には、経験や体験がないと気づけず、授業のテンポに影響すると思うので、本番はスムーズに進行できるよう準備していきたい。

□ 今年度前期の教育実習の概況

今年度の教育実習申請者 34 名のうち、19 名が５月から７月にかけての教育実習に臨みました。残る 15 名は、現在実習中や実習を控えている学生です。下記の表は、７月までに実施された教育実習の概況（中間報告）です。校種別では**高等学校が全体の約６割**を、実施地域別では学生の出身割合が高い**東北地方が約７割**を占めました。学生の中には、自身の出身校ではなく秋田県内の高等学校を希望した人も含まれています。

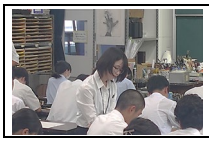
都道府県	中学校	高　校	計
青　森	1	1	2
岩　手		3	3
秋　田	3	3	6
山　形	1		1
福　島		1	1
茨　城	1	1	2
兵　庫		2	2
香　川	1		1
山　口	1		1
	8	１１	１９

Ｒ８年度前期 教育実習の概要（単位：人）

教育実習日誌の「教育実習を終えて」より、感想を一部紹介します。

- ➢ 実習期間中に開催された学校祭が、生徒たちとの距離を縮める大きな転機となった。３年C組の模擬店に向けた準備に共に加わり、同じ机を囲んでポスターを作ったり装飾を考えたりする中で、見ているだけでは見えなかった生徒一人ひとりの主体性や仲間を思いやる協調性、課題にぶつかったときには解決しようと奔走する一生懸命な姿勢を目の当たりにした。
- ➢ 生徒と関わっていく中で、生徒の様々な特性や良いところなどを発見することができた。教師という職業は、色々な生徒と出会うことでしか味わえない魅力があるなと感じた。生徒だけでなく、たくさんの教師や、生徒の家族などの様々な関わりを通して成長できる面白い職業だと思う。
- ➢ ３週間という短い期間であったが、多くの先生方や生徒と関わることができた。実際に授業をしたり、生徒と話したりする中で、教師の仕事の難しさや大変さだけでなく楽しさも知ることができた。うまくいかなかったことや反省点も多かったが、それ以上に多くのことを学ぶことができた。
- ➢ 生徒たちを一人前の社会人として送り出すために、育て、見守る、学校教育は尊いものだと思う。

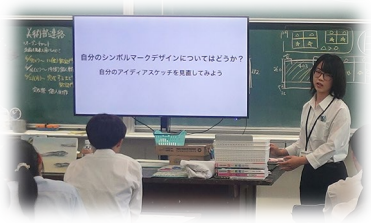
「学習指導と生徒指導は車の両輪」です。いかに教科指導の技術が高くても、生徒の実態や既習事項を踏まえない授業は、思考が停止したり課題に集中できなくなったりします。日々の観察や生徒とのコミュニケーションを通して生徒理解を深めることこそが、授業を豊かにする基盤となります。



ビジュアル&アーツ
3年　渡　邉　　環　さん
〔福島県立磐城高等学校〕

【実習校の概要】
○実習期間　令和８年６月８日（月）～６月 26 日（金）
○配属学級　１年３組
○福島県いわき市にある創立 130 周年の公立高校です。県内トップクラスの進学実績を誇る伝統校で、文武両道を掲げるとともに先進的な教育を行っています。

【研究授業の様子】

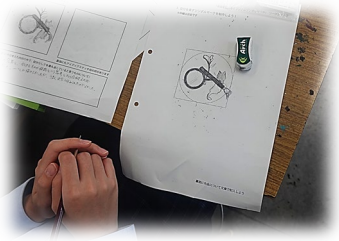


題材名「自分を伝えるオリジナルシンボルマークをデザインしよう」（全４時間構成）に取り組み、第３・４時間目を研究授業として実施しました。

第１時間目には企業のロゴマークや県章、家紋を鑑賞してシンボルマークの役割や工夫を考えさせ、第２時間目には自分を構成する要素からシンボルマークを制作する上でのアイディアスケッチを行いました。

第２時間目終了後の反省会において、指導教官から「生徒のモチーフへの理解が不足している」「アイディアスケッチの段階で自身の作品を客観視できていない」という助言を受けました。

そこで第３時間目の導入では、新たに評価表を作成・提示し、意図的に課題や検討の余地を残した参考作品を鑑賞・評価する活動を取り入れたことで、生徒自身のアイディアスケッチを振り返らせ、評価する時間を設けました。自らの構想を客観視させた結果、それまで「線」で捉えていた表現が「面」を意識したアイディアへと改善されていきました。



第４時間目の鑑賞では作品を無記名で展示し、グループで鑑賞する場を設定しました。先入観なく作品と向き合い、作品から受ける印象を客観的に言語化させるねらいがありました。実際の鑑賞では、作品に込められた意味を解釈しようと丁寧に鑑賞したり、作者の意図を読み解いて納得や驚嘆の表情を浮かべたりする姿が見られました。さらに、誰の作品かが判明した瞬間には歓声が上がるなど、無記名展示の意図が十分に発揮された授業となりました。

【実習を終えて】

教育実習を通して、「教えること」と「伝わること」は異なると実感しました。教師が理解している内容でも、生徒に伝わる形に変換しなければなりません。生徒の立場に立って授業を考え続けることが教師として最も大切な姿勢であると学びました。

〔担当：谷村〕



ものづくりデザイン
3年　小　野　裕　奈　さん
〔秋田県立秋田北高等学校〕

【実習校の概要】
○実習期間　令和８年５月 12 日（火）～６月１日（月）
○配属学級　１年Ｅ組
○1901 年に創立された秋田県立秋田高等女学校を前身とする 120 年を超える歴史を持つ伝統校で、2008 年に男女共学化しました。文武両道に力を入れる一方で、生徒の主体性や「考動（考えて行動する）」を大切にする明るく穏やかで落ち着いた校風で知られています。進路状況は、国公立大学、私立大学進学者が８割を超える県内有数の進学校です。

【研究授業の様子】



お菓子のパッケージの形や色彩が感情にもたらす効果や造形的な特徴などを比較検討しながら、そこに込められた制作者の表現の意図や工夫などについて、生徒が考え、見方や感じ方を深めることを目的とした授業でした。

最初、生徒は緊張気味でしたが、実習生の落ち着いた態度やわかりやすい説明もあり、その後のグループ学習等では活発に意見を交換する姿が見られました。黒板とスライドの両方を上手く使い、授業の流れがスムーズに理解できるよう計画されていました。板書計画を含め、よく準備された授業であると感じました。



本時の授業は配属されたHRの生徒であったことで、生徒本人の名前を呼んで対応する配慮ができていました。生徒との良好な関係を築いている様子が見られました。授業中は終始一貫して穏やかな口調と丁寧な言葉遣いで進行していました。教育実習生として立派な態度であったと感じています。

【実習を終えて】

準備はかなりしていましたが、計画した時間通りに進められるか不安がありました。しかし、実際に授業をやってみて、これまでできなかった時間管理がうまくでき、余裕があれば紹介しようと考えていた資料も取り扱うことができました。特に、時間を確認しながら指示を出し、生徒に作業を進めさせることができた点がよかったです。研究授業当日は朝からとても緊張していて、そのことが授業の開始時の生徒の反応にも出ていたようでした。配属されたＨＲは１Ｅで、実習２日目からＳＨＲを一人で仕切るよう指示されましたが、どうにか頑張ってやれました。

〔担当：佐藤〕



アーツ&ルーツ専攻
3年　山　下　世　菜　さん
〔山口県長門市立深川中学校〕

【実習校の概要】

○実習期間　令和８年５月 25 日(月)～６月 12 日(金)
○配属学級　１年３組
○生徒数 283 人。校訓は「勧学」

目指す生徒像を「ふるさと長門を愛し、挨拶でつながる元気な子」とし、地域に学び、地域に貢献する生徒の育成に取り組んでいます。部活動については学校ごとの運営から長門市全体での運営に完全移行しています。

【研究授業の様子】



研究授業の題材は「詩の世界を色で表現しよう」。長門市出身の童謡詩人金子みすゞの詩を手がかりに、生徒自身が詩から感じ取った印象や心情を色鉛筆を使って色彩豊かに表現していました。

長門市の方々（大人も子供も含めて）は、郷土の詩人金子みすゞを親しみを込めて「みすゞさん」と呼んでおり、彼女の詩をモチーフにしたことにより、生徒が地域とのつながりを意識しながら、興味・関心をもって制作に取り組んでいたように感じました。お互いの作品について意見交換する場面においても、みすゞ作品に対する深い理解や、ふるさと長門に対する愛情が感じられる発言が交わされるなど、詩を通して良さや美しさを再確認する活動が展開されていました。



【実習を終えて】

教師の発する言葉の重さを痛感した教育実習でした。発問、指示、助言、説明…教師は授業の状況に応じて、素早く判断し適切な言葉を発しなくてはなりません。はじめての授業で私は自分の言葉に自信が持てず、しどろもどろになってしまい結構落ち込みました。しかし、何回が授業を重ねるうちに、生徒をよく見て困り感に応じて指示や補足説明ができるようになりました。「はじめに生徒ありき」その大切さを改めて感じました。

〔担当：嶋崎〕



コミュニケーションデザイン専攻
3年　佐々木　彩　矢　さん
〔岩手県立宮古高等学校〕

【実習校の概要】

○実習期間　令和８年６月 22 日(月)～７月 10 日(金)
○配属学級　１年D組
○全日制のほか定時制や通信制も併設する地域の伝統校。ＪＲ宮古駅から徒歩数分に位置し、遠方の生徒も通いやすい立地にあります。スポーツ、文化活動共に盛んで、校舎には生徒諸君の活躍を讃える数多くの垂れ幕が掲示されていたのが印象的でした。



【研究授業の様子】

「デザインは誰のため？～時代と価値観が作るデザイン」と題して「同じ対象や目的を持つが、時代によって変化したデザイン」を比較鑑賞して、デザインが時々の時代背景や価値観と密接に結びついていることに気づかせる授業でした。



説明や指示が簡潔かつ明確であるばかりでなく、声の張りやトーン、速度などが適切で、生徒が迷いなく活動できていました。トイレのピクトグラムをきっかけに、ベンチ、ハサミと身近なデザインを取り上げ、個で考え、グループで協議する展開がスムーズに進められていました。

中でも、各グループを回って学習状況をしっかり観察し、生徒の思考や活動を助けるアドバイスや指示を上手に与えていた場面は実に見事でした。

また、授業会場である視聴覚室の特長を生かして、正面の大きなスクリーンにスライドを投影し、側面のホワイトボードに生徒の意見を書き込んでいくなど、学習の場が工夫されていたことにも感心しました。



【実習を終えて】

授業後に回収したワークシートには、自分の予想以上に多くの考えや意見が書かれており、生徒が真剣に授業に向き合ってくれたことが伝わってきてうれしかったです。

授業以外にも多くの活動に参加し、学校は生徒の成長を支える様々な教育活動によって成り立っていることを目の当たりにしました。

教師は決して楽ではないですが、生徒の成長を間近で感じられる、とてもやりがいのある仕事であることを改めて実感することができました。

〔担当：加賀谷〕

教職入門（１年次）を終えて

◇　はじめに



教育実習関連科目の文字通り入門科目である「教職入門」では「教職の魅力ややりがいとは？」「美術教育の意義とは？」という二つのテーマに基づき、日新小学校と美大附属高等学院での体験実習を中心に学びを深めていきました。



授業の中で大事にしてきたことは、実習先での体験活動だけでなく、グループワークによる事前・事後の協議や考察でした。これまでの経験等をもとに、テーマに対する仮説を立て、グループで話し合い、実習を通して検証し、振り返って考察するサイクルは、教職に対する見方や考え方の変化や深化につながりました。



また、話し合いを重ねる中で、お互いのコミュニケーションの深まりにもつながったのではないでしょうか。

◇　教職の魅力・やりがいとは？

秋田杉がふんだんに使われた真新しい校舎の日新小学校を訪問し、グループごとに４年生から６年生の各学級で授業参観と授業のサポートを行いました。



「○○先生」と呼ばれる初めての体験にくすぐったいものを感じながらも、児童とのふれあいを楽しみ、教職の魅力について考える時間となりました。





また、訪問前には黒沢淳校長先生から貴重なお話をいただき、図画工作科、美術科としての「見方・考え方」や「発達の段階に応じた教育の大切さ」について理解を深めることができました。

◇　美術教育の意義とは？

本学の前身であり、特色ある美術・工芸教育に取り組んでいる秋田公立美術大学附属高等学院では、那珂千波副校長先生のご講話を皮切りに、木材工芸、金属工芸、インテリアデザイン、ビジュアルデザインの各コースの授業参観と指導に当たられている先生方との懇談を行いました。

充実した施設設備を生かした少人数制による専門的な美術教育を目の当たりにして、美術教育の意義や大切さについて、一人一人が自分なりの答えを見いだす貴重な機会となりました。

〔 レポートから 〕

○純粋な鑑賞者の視点では、美しいかどうかで価値を決めてしまうが、教師としての見方はそれと同じであってはならない。子どもたちがいかに思考を働かせて表現しようとしたのか、その過程を見ることが大切であることを実感した。

○最後の挨拶で「素敵な作品を作ってください」と声をかけたとき、元気に返事してもらえたことが強く心に残っており、教師の魅力を体験できたように感じた。

○美術教育は日々の生活の豊かさや自己肯定の基礎を築くことにつながるものである。どんな生徒の人生にも美術は身近にあり、大事なことであることを信じることができた。

○子どもと会話して伝わったときのうれしさや分からないところを教えて感謝されたときの喜びなど、教職のやりがいに気づくことができた。

○授業を受ける側だったときはあまり意識していなかった「子どもがのびのびと学ぶことができるようにするための先生方の意図やしかけ」を感じることができ、貴重な体験となった。

１年次の教育実習関連科目は、後期に「学校体験実習１」を履修します。お隣の秋田西中学校を訪問し、学校における組織的な指導体制や子どもの主体性を高める指導などについて考えます。

～教員採用試験情報～

令和８年度の各自治体の教員採用試験はほぼ終了し、２次試験の結果待ちの時期を迎えています。令和５年から一部の自治体で始まった「前倒し選考（大学３年次受験）」は、今年度約９割の自治体で導入されました。本学においても前倒し選考にチャレンジし、見事合格を果たした学生がいます。合格者は来年度の教員採用試験で１次試験が免除され、２次試験から臨めるという大きなメリットがあります。

また、来年度からは教員採用試験の「共同実施」が始まります。これまで各自治体が独自に作成していた「教職教養」や「専門教養」の試験を共同問題として実施するもので、全66自治体のうち51自治体が参画を公表しています。深刻な教員不足を背景に受験生の選択肢を増やすとともに、自治体の負担を減らす「働き方改革」の一環でもあります。

来年度の受験を考えている学生は、今後も各自治体の動向や試験内容の最新情報にぜひ注目してください。

後期の教員採用試験対策セミナーは、毎週月曜５限「教職および博物館学芸課程センター」（教職支援室隣）で実施します。10月19日（月）スタートです。